

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第5号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第5号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R8 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R8 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R8 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R8 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R8 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	22.9	1.3	27.6	26.3	-1.3	16.7	20.0	3.3	21.8	46.5	213.3	25.9	11.9	45.9
	2	22.3	22.5	0.2	27.8	27.7	-0.1	17.8	17.9	0.1	28.6	20.5	71.7	23.0	29.4	127.8
	3	22.8	23.1	0.3	27.9	28.8	0.9	18.7	17.9	-0.8	40.9	0.0	0.0	21.2	36.2	170.8
	4	23.3	25.2	1.9	27.9	29.8	1.9	19.7	22.6	2.9	58.6	85.5	145.9	18.8	11.9	63.3
	5	23.9	22.4	-1.5	28.1	24.5	-3.6	20.6	20.6	0.0	74.3	369.0	496.6	15.4	7.1	46.1
	6	24.6	23.0	-1.6	28.4	27.7	-0.7	21.6	20.0	-1.6	84.4	44.5	52.7	14.1	23.4	166.0

6月6半旬の平均気温は平年より1.6低く、最高気温は0.7℃低く、最低気温は1.6℃低くなった。日照時間は平年比166%と長い。6月5半旬の降水量は、平年より496%多くなった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月2日）

項目	年次	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	概要
七タコシヒカリ	本年値	79.4	20.5	379	・稈長は平年より低く、穂長は平年より長い。 ・穂数は平年比94%と少ない。 ・生育は進むため、暫定の値とする。
	近似年値 ※1	81.7	18.3	394	
	平年値 ※2	86.3	18.1	405	
	平年比	92	113	94	

※1 近似年値データは出穂期が6/23であるH28年のデータ

※2 平年値はH27～R7の平均値

※3 本年移植日4月6日、栽植密度 16.5株/m² 1株セット本数4本 出穂期 6月22日

3. 管内の生育状況（7月2日時点）

- 1) 七タコシヒカリ：現在、出穂から10日が過ぎ、傾穂始から傾穂期頃となっている。**情報田の出穂期は6月22日となり、平年より5日早い。**積算気温から予測される収穫適期は7月22日～7月30日頃である。積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。

4. 今後の管理

1) 水管理

(1) セタコシヒカリ

- 「セタコシヒカリ」は、乳熟期を迎えており、登熟初期から中期にかけて水が溜まっていると、根の活性が衰えていくため、間断灌水（酸素を根に与える）を行い、根の活性を高める。早期の落水は粒の充実不足、品質低下につながるため、適切な時期（収穫7日前ごろ）までは、灌水スパンを徐々に短くしながら間断灌水を続け、徐々に地固めを行う。

(2) 普通期水稻

- 田植は6月20日前後が盛期であった。今後3号分げつの発生の時期であり、稲の活性を高めるために、浅水管理をする。
- 今回の大雨による冠水により、水稻の葉が流れ葉（浸水時に水に浮き、退水後も下垂した状態の葉）になったところ以外では、退水後速やかに新しい水と入れ替えたのち、いったん落水して土中に酸素を供給し、発根を促し、分げつの発生を促進する。
- 移植直後、除草剤を散布していない場合は、流れ葉（浸水時に水に浮き、退水後も下垂した状態の葉）を呈した圃場では、稲の回復を待って、除草剤を散布し、流れ葉を呈していない圃場では、天候回復後に使用時期の範囲内で速やかに散布する。
- 除草剤散布直後に短時間の集中豪雨により浸冠水した圃場においては、今後の雑草発生を見極めて、中・後期の除草剤で対応する。
- 麦わらなどのすき込み圃場でガスの発生が著しい場合は、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。（表1参照）

《表1 ガス（湧き）発生程度及び対策》

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返し
甚	晴天時自然に気泡発生する（ばちばちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し 回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入れると、気泡（ガス）が激しく発生する

⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

(2) 病害虫防除（七夕コシヒカリ）

①紋枯病

- ・大雨による浸水により、麦わらなどの残渣が吹き寄せられている圃場では、地際の風通しが悪くなり、株間湿度が上がしやすい。この状態が続くと、紋枯病が発生しやすい好適条件となるため、圃場周辺の株元などを注意して確認する。

②穂いもち

- ・農業技術防除センターの6月25日の病害虫発生予察情報では、穂いもちの7月の予想発生量は平年並となっている。

③ウンカ類

- ・ウンカ類は6月15日～17日の調査では、飛来が確認されていない。
- ・発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。



④斑点米カメムシ類

本年は、雑草地での発生が平年より多い。水田周辺の畦畔、空き地等の除草を実施するとともに、穂ぞろい期及び乳熟期の2回防除を行う。

5. 大豆の管理について

- ・収量、品質を確保するには、播種時期にあった苗立ちを確保することが最も重要となる。
平坦部では7月上中旬を播種適期としているので、降雨後、圃場が播種作業のできる状況になり、苗立ちが確保できる天気予報であればすみやかに播種を行う。なお播種に当たって留意点は以下のとおりである。

1) 播種

(1) 種子消毒

- ・乾燥で出芽までの時間がかかることによる土中での種子の腐敗リスクを軽減するため、種子消毒を行い、出芽率の向上に努める。

(2) 梅雨の間の播種対策

- ①トラクタで耕起可能な状態になれば直ちに耕起し播種を行う。
- ②天候が変わりやすい場合は、荒耕起を行わず、不耕起播種や部分浅耕播種技術、逆転ロータリを用いた一工程播種等技術の積極的な活用や、組み作業等による効率的な播種に努める。
- ③一般に晴天が続く場合は、除草や碎土のための荒耕起後に耕起・播種（2工程）する。
※播種後、大雨が予想される場合は播種を行わない。大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなることを留意する。
- ④晴天が続き高温乾燥が予測される場合、コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。

(3) 共通対策

- ①播種後降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠（作溝）を施工する。
- ②播種後、好天が続くと思われる時は碎土率を高めて、覆土は4cm程度に厚めにし、鎮圧を行う。
- ③播種期別の播種量は下記のとおりであるが、碎土率によっては発芽率が劣るので、播種量を多くする

等の対策を講じる。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m ² 当たり)	栽植本数 条間×株間×1 株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/1～7/5	10 本	75cm×25cm×2 本	3.2kg
7/6～7/15	13 本	75cm×20cm×2 本	4.0kg
7/16～7/25	18 本	75cm×15cm×2 本	5.3kg

(4) 播種後対策 (大豆を播種したもの、まだ出芽していない場合)

①播種後、7日程度経過した圃場では、土中の種子を掘り返し、種子の状態を確認する。

降雨が期待できない場合、うね間灌水 (注1) を検討する。

注1：うね間灌水は、夕方、日が陰ったあとに圃場に入水し、圃場に水が行き渡ったらすぐに落水し、少なくとも翌朝には完全に落水させる。日中の灌水は、高温・多湿により種子が腐敗しやすい。

(5) 播種後の気象でまとまった降雨がある状況になった場合の対策

播種後、まとまった降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。

また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠 (作溝) を施工する。

2) 雑草防除

(1) 播種前対策

茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

(2) 播種後対策

播種直後に土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。

(3) 難防除雑草への対応

アサガオ類やホオズキ類の難防除雑草の発生が多い地域では、圃場内侵入防止に努め、見つけ次第手で抜き取る。圃場内に発生している場合、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット処理や手取りの防除に努める。

(4) 大豆は初期生育が早く、大豆の茎葉が繁茂することで雑草発生を抑制できるので、雑草の発生が少なければ、早めに中耕培土で防除が可能である。大豆生育期 (2～5葉期) に中耕培土を実施する。

別紙 セタコシヒカリ収穫適期予想表

令和8年産「セタコシヒカリ」収穫適期予想表（アメダス観測地、白石）

宮城・岩手地区農業振興推進協議会作物部
 作物部 農業改良振興センター
 令和8年7月3日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R8	6/18	6/20	6/22	6/24	6/26
6	18	23.3	24.8	出穂期				
	19	23.4	25.0	25				
	20	23.5	25.9	51	出穂期			
	21	23.6	24.5	75	25			
	22	23.8	22.2	98	47	出穂期		
	23	23.9	19.7	117	66	20		
	24	24.0	21.6	139	88	41	出穂期	
	25	24.2	23.8	163	112	65	24	
	26	24.3	20.9	184	133	86	45	出穂期
	27	24.4	22.4	206	155	108	67	22
7	28	24.6	23.5	230	179	132	91	46
	29	24.8	24.2	254	203	156	115	70
	30	24.9	23.8	278	227	180	139	94
	1	25.1	24.4	302	251	204	163	118
	2	25.2	24.4	326	275	229	187	143
	3	25.4		352	301	254	213	168
	4	26.5		378	327	281	239	195
	5	26.7		405	354	307	266	221
	6	26.8		432	381	334	293	248
	7	26.9		459	408	361	320	275
8	8	27.1		486	435	388	347	302
	9	27.2		513	462	415	374	329
	10	27.3		540	489	443	401	357
	11	27.5		568	517	470	429	384
	12	27.6		595	544	498	456	412
	13	27.7		623	572	525	484	439
	14	27.8		651	600	553	512	467
	15	27.9		679	628	581	540	495
	16	28.1		707	656	609	568	523
	17	28.2		735	684	637	596	551
9	18	28.3		763	712	666	624	580
	19	28.4		792	741	694	653	608
	20	28.5		820	769	723	681	637
	21	28.6		849	798	751	710	665
	22	28.7		878	827	780	739	694
	23	28.7		906	856	809	767	723
	24	28.8		935	884	837	796	751
	25	28.9		964	913	866	825	780
	26	28.9		993	942	895	854	809
	27	29.0		1022	971	924	883	838
10	28	29.1		1051	1000	953	912	867
	29	29.1		1080	1029	982	941	896
	30	29.1		1109	1058	1012	970	925
	31	29.2		1138	1087	1041	999	955
	1	29.2		1168	1117	1070	1029	984
	2	29.2		1197	1146	1099	1058	1013
	3	29.3		1226	1175	1128	1087	1042
	4	29.3		1255	1204	1158	1116	1072
	5	29.3				1187	1146	1101
	6	29.3				1216	1175	1130
11	7	29.3					1204	1160
	8	29.2						1189
	9	29.2						
	10	29.2						

4月6日移植→出穂期6月22日頃

④ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最終 850℃

～

最低 830℃



< 収穫のポイント >

○ 積算表はあくまで目安です。

○ 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決めてください。

○ 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や、「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。

○ 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。

○ 「セタコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間（トラックやコンテナでの堆積時間）はなるべく長くならないよう作業を進め、収穫された稲は速やかに通風・乾燥してください。



< 収穫適期の目安 >

・ 稲水分27～28%（穂軸の先端（穂先）から1～2cmが枯れ、穂元の青穂が5～7粒残っている状態で、稲をソメで押してもつかなくなった時。稲水分が25%未満（積算気温で1,000度以上）になると刈遅れによる品質低下が懸念されます）

・ 収穫時期の気温が高い「セタコシヒカリ」では、普通期水稲よりも稲水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での稲の稲水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・ 早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「開割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。

令和8年産 作物作付期間気象図 アメダス観測値(白石)

